

一九五九年一月二十五日
印刷
發行



第42卷 第6号

史学・地理学・考古学

中世の頼母子について 三浦圭一 (1)

マグナ・カルタの本質と身分構成に就いて 金子光介 (23)

ブルターニュにおける散居集落の構造 谷岡武雄 (56)
——レンヌ近郊パッセ村を中心として——

半済下の庄民生活 井ヶ田良治 (86)
——若狭国遠敷郡太良庄——

元代知識人と科学 安部健夫 (113)

書評

水野清一著：殷周青銅器と玉 樋口隆康 (153)

紹介

魚澄先生古稀記念国史学論叢 宇野幸男著：刈谷藩に関する研究
石阪幸二郎編：兵庫津北風家惣支配役喜多文七郎口誌
会告・大会予告・例会予告・学界消息

史学研究会

京都大学文学部内

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内
史学研究会

⑩ Vinogradoff, *ibid.*, pp. 354~6; Villainage in England,

pp. 94 et seq.

⑪ Vinogradoff, *The Growth of Manor*, p. 357.

附記

偶々昨年のこと、ラテン語の権威田中秀央博士のお勧めを頂いて、法律に關しては門外漢ながら、博士を中心とするマグナ・カルタの研究に参加することとなつた。博士とは筆者が旧東京帝国大学史学科にありし頃より御指導と御好誼を重ね、本稿の作製にあたつても何かと御教示に預るところが多い。博士の御厚情に對して銘感深謝に堪えない。

本邦に於ては、史料の蒐集が極めて困難な事情があつて、悉く原典に當ることの出来なかつたことは遺憾である。なおマグナ・カルタの邦訳については、主として田中秀央博士「Magna Carta 特集」(『京都女子大学英文学論叢』三号)により、又田中英夫訳(高木八尺他編、岩波文庫『人權宣言集』・イギリス憲法(衆・参議院法制局他編、『各国憲法集』(三))を参照した。

執筆者紹介

三浦圭一	京都大学大学院学生
金子光介	京都市立美術大学教授
谷岡武雄	立命館大学教授
井ヶ田良治	同志社大学助教授
故安部健夫	(京都大学教授)
樋口隆康	京都大学助教授

史学研究会例会予告

日時 十二月五日 午後一時より

場所 京都大学楽友会館

演題

京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン學術
調査隊 帰朝報告会(予定)

来聴 歡迎

ところが、容氏は動物の側面形から変化したS字状の図文で、「**体軀の両端が一上一下して共に曲り、中央に目形のあるもの**」をいつている。すなわち、善夫克鼎では、頸部の鑿鑿くずれの文様をこそ竊曲文と称し、胴腹の波状文は環帶文または波文と呼んでいるのである。ところが、郭氏はこの波状文を竊曲文と呼んでいる。これは竊曲文の意であるが、この語の出典『呂氏春秋』に「周鼎に竊曲あり云々」の注に「一に竊に作る」とあるのを郭氏はとつて、竊は曲であるから、竊曲という方が正しいとしている。試みに竊の意をしらべてみると、「盗む」「私かに」「浅い」などであつて、図像上の特別な意味を示すようにも思われぬ。郭氏が竊曲文を波状文にあてたのは、単に曲折しているからであらうが、この波状文はケヤキの木理を仿ねたのであらうと推定している。

さらに郭氏は容氏のいわゆる竊曲文の類を夔龍文の変化したものとみなして、それぞれの変化形に応じて、相夔文、盤夔文、変相盤夔文などと呼んでいて、それは『博古圖録』に蟠夔文、交夔文と呼んでいるのと主旨を一にするようである。

以上の考察からすると、わたくしは大局的には郭氏の説を是とするが、本書の用法は容郭両説の混用であつて、その意図が奈辺にある

るのかは明瞭でない。

以上、本書を一読して、気づいた点を問題としてとりあげたが、これは頃来、評者が解明に苦しんでいたところであつて、これを機会に著者ならびに読者諸氏の御教示を得たかつたからにはほかならない。一部のミスは出版に要した短時日にその責を帰すべきであつて、本書の眞価をいささかでも破壊するものではない。ただこのような啓蒙的著書が、いまし安価に、広く一般読者に利用せられることを望むのは無理であらうか。

(B4 変則判、本文一〇一頁、図版一七六頁、昭和卅四年三月日本経済新聞社発行、定価九、〇〇〇円)

訂 正

四二巻五号所載渡辺、弓削共訳マックス・ウェーバー「古代社会経済史」の書評の際アームスト・パビリをアームスト大学所蔵と記しましたが、関西学院大学栗野頼之祐教授の御指摘によりますとこれはモルガン大学所蔵でありますので訂正させていただきます。(浅香正)

九月二日(土) 午後二時 陳列館演習室

清代の商人 笹本重巳

敦煌丁中郷籍における従化郷の問題 西村元佑

一〇月一〇日(土) 午後二時 陳列館演習室

明代の宣府鎮 井ノ崎隆興

防衛体制を中心として 李 大熙

西洋史関係

讀書会例会 於西洋史研究室

九月二日(土)

変革期における政治権力と民衆

一六世紀英国の場合

越智武臣

九月二六日(土)

変革期における政治権力と民衆

ドイツ宗教改革期について

中村賢二郎

人文地理学関係

人文地理学会 第33回例会

九月一八日(土)

於立命館大学文学部

近世日本の地理学と北方問題 押野昭生

養殖漁村の類型

大島襄二

庄川上流の電源開発と地域の変革

小寺廉吉

考古学関係

大阪府大東市中垣内弥生式遺跡の調査

関西配電が大坂変電所の建設にさいして、

遺跡の事前調査を小林行雄講師に委嘱。調査

は七月二八日から一六日間おこなわれ、構内

の北方隅とその北側の二カ所を発掘した。北

東隅で一辺約二メートルの方形の堅穴が四個

認められ、そこから壺、甕、鉢などを含む大

量の土器片および石庖丁、石鏝が発見され

た。今回の調査で発掘された土器は弥生式前

期のものが多く、中期の土器もある。

長広敏雄教授の渡欧

人文科学研究所の長広敏雄教授は東洋美術

の調査のため八月渡欧。ヨーロッパ各地の博

物館を歴訪して一月末に帰国される予定。

編集後記

秋冷の候を迎え、漸く四二巻も六号をお送りすることになり、当初御約束しました年間九〇〇頁(昨年度の五割増)をここにつつがなく完了しましたことを、皆様とともに慶びたいと思います。しかし、収載論文数は二九篇で昨年度に比し、僅か六篇を増加したに止まりました。これは、雄篇力作の多かつたためで、そのこと自体は編集委員会として大いに誇りとするところでありますが、より多数の会員の皆様には、四〇〇字五〇枚以内の投稿規定を是非お守り頂きたく、このことを来年度への申し送り事項としてお願いしたいと思ひます。(山澄元)

史

林 (第四二巻 第六号)

一九五九年一〇月二五日印刷 定価一八〇円
一九五九年一月一日発行

発行所

京都市左京区吉田本町
京郡大学文学部内
史学研究所

理事 長 振替京福五一五五番
編集主任 宮崎市定
赤松俊秀

印刷所

京都市下京区西七条御所ノ内東町三九
中村印刷株式会社

会 告

一、日本学術会議第五期会員候補者推薦について

来る十一月二十日、日本学術会議第五期の会員選挙が行なわれます。史学研究会では、次の各氏を候補者として推薦いたしましたので御諒承下さい。

全 国 区 (第一部)

本会理事

井 上 智 勇 氏

近畿地方区 (第一部)

本会評議員

貝 塚 茂 樹 氏

東北地方区 (第一部)

本会評議員

曾 我 部 静 雄 氏

一、史学研究会大会予告

下記の日程で本会及び読史会・東洋史談話会・西洋史読書会連合大会を開催いたします。多数御参加下さいませよう御案内申し上げます。

◇十一月一日(日) 午前八時半〜午後五時

見学会 南山城の古寺巡礼

一休寺・普賢寺・岩船寺・浄瑠璃寺 (終了後京都細川邸にて懇親会)

講師 京都博物館 毛利 久氏

参加会費 五〇〇円(懇親会費を含む)

※参加御希望の方は会費を添えて前もつて御申込下さい。当日御申込の受付はいたしません。あらかじめお含みおき下さい。

◇十一月二日(月) 午後一時より

於京大薬友会館

史学研究会大会及び総会

戦後史学と歴史主義

早稲田大学教授 鈴木 成 高 氏

地籍図にみる歴史地理学の課題

京都大学教授 藤 岡 謙 二 郎 氏

◇十一月三日(祝) 午前九時より

東洋史談話会・西洋史読書会大会

◇読史会大会 読史会は本年創立五十周年にあたり、次の日程で記念大会が開催されます。

◇十一月三日物故会員追悼会・公開講演会・祝賀晩餐会◇十一月四日五十周年記念大会◇十一月二日〜五日史料展

会員各位

史 学 研 究 会

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLII No. 6

Nov., 1959

CONTENTS

Articles :

- On *Tanomoshi* (頼母子) in the Middle Ages
.....*Keiichi Miura* (1)
- The Nature of Magna Carta and the Then
Rank Construction *Mitsusuke Kaneko* (23)
- The Construction of Dispersed Settlements
in Bretagne *Takeo Tanioka* (56)
—mainly on *Pacé* village in the suburb of *Rennes*—
- The Life of Manorial Peasants under
Hanzei (半济) *Yoshiharu Igeta* (86)
—the case of *Tara-no-shô, Onyû-gun,*
Wakasa-no-kuni (若狭国遠敷郡太良庄) —
- Intellectuals in the *Yüan* (元) Dynasty
and the *K'o-chü* (科举) *Takeo Abe* (113)

Book Reviews & News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan